

越谷市地域支え合い会議 ニュースレター

Vol. 02

2021年2月

越谷市地域支え合い会議とは

越谷市地域支え合い会議(第1層協議体)は、平成28年度に設置し、支えあい活動の充実に向けて、全市的な仕組みとして、介護予防・日常生活支援総合事業の住民主体サービス(サービスB)を初めとした協議や市内の支え合い活動の視察などを行ってきました。

また、平成30年度から地区レベル(第2層)の取組みが始まったことを受けて、地区レベルの取組み状況の報告や意見交換なども行ってきました。

越谷市地域支え合い会議の 3つの『柱』

【種をまく】

- ・地域活動の必要性を伝える
- ・地域活動を支援する仕組み



【水をやる】

- ・地区レベル(第2層)の協議や助言



【芽を育てる】

- ・新たな地域活動のPRなど



新たに3地区で取組みが始まりました

地区レベル(第2層)では、令和2年度から、大袋地区、増林地区、大沢地区の3地区で取組みが始まりました。

越谷市地域支え合い推進員(第1層生活支援コーディネーター)が各地区の取組みをフォローしながら、支えあい活動の立上げを目指します。

増林地区



大袋地区 (2エリアで開催)



大沢地区





令和2年度の取組み

越谷市地域支え合い会議を令和2年12月に開催。地区レベル(第2層)のうち、3地区(越ヶ谷地区、桜井地区、荻島地区)の取組みや課題について協議しました。

「With コロナ」を踏まえて、どのような活動ができるのか、イベント開催やアンケート調査を通じたニーズの掘り起こしや企業との連携について、話し合っています。

担い手の発掘については、学生など幅広い年代を集める視点・工夫が必要。(社会福祉協議会)

コロナ禍での依頼は、ゴミ当番や服薬受取の代行が多くなった。(シルバー人材センター)

イベントの協力については、配食業者さんに試食会を依頼したことがある。(福祉推進員)



企業の協力について、ある薬局さんは地域講座や会議参加に前向き。地域課題として、コロナ禍で足腰が弱り、買物に困っている人が多い印象(地域包括支援センター)

高齢者からはコロナ禍で孤独を感じていて、人とのつながりを求める声が多い。(民生委員)

越ヶ谷地区



「通いの場」&「相談できる場」＝「居場所づくり」を目標に「会場」探しや地区内のラジオ体操の情報収集を行いました。協力してくれる地域企業(薬局など)について情報交換を行いました。

桜井地区



「支えあい活動」に向けてチラシ作りや担い手の募集に向けたアンケートを実施しました。コロナ禍でのニーズや幅広い年代への働きかけについて話題に挙がりました。なお、個人情報の管理については、引続き協議となりました。

荻島地区



「移動販売」の展開に向けて、アンケートを実施しました。また、地区を跨いだ取組みや「買物」に対するニーズの掘り起こしについて話題に挙がりました。なお、地域ニーズと採算性については、引続き協議となりました。